

より市民の生活に役立つ情報を

市民生活に必要な情報が目の届きにくい所に掲載

●（平成25年）12月21日号の「広報とめ」で、年末年始の業務の休業が掲載されていたが、あまりにも小さく見落としてしまっただった。市民の生活に必要と思う情報が、市民の目の届きにくいところに掲載しては、せつかく載せても意味がないと思う。

特にごみ収集業務に関しては、年間の予定を出しているからだと思うが、昨年、12月31日の業務休業が分からずにごみを出した家庭がずいぶんあった。そのままごみが置いてあって、衛生上よくないと思う。

市民は曜日でごみの収集日を覚えていて。その感覚でごみを出して大丈夫だと思っっているのに、休業日をしつかり目に付く所に掲載しないと、休業日にもごみを出すという

ことになると思う。

●お知らせ記事などで文字を大きくしてもよいのではないか。全体的に文字が大きくなれば、さらに読みやすくなると思う。

●市の出来事記事（平成26年1月1日号なら6〜7ページ）は横書きの方が見やすいと思う。

●今後、市への合併交付金の削減も予定されていることから、一般企業と同じように、4カ月に一度は市の予算執行状況をバランスシートで発表してほしい。市の予算の確保、執行は大きな問題だ。

●ページ数および内容については、年間を通してよく内容を精査し、掲載していると思う。また、広報紙作製予算の軽減に企業広告を充てることも良いアイデア。今後も市内各企業・事

平成25年度の市政モニターの皆さんに、市広報紙「広報とめ」に対する意見・要望などをお聞きしました。市では、こうした意見・要望を参考に市民に親しまれ、そして役に立つ広報紙づくりに今後も努めていきます。

業所に働き掛け、予算削減に努めてほしい。
1月1日号の年頭あいさつを1ページにまとめ、他の記事を掲載してはと感じる。また、イベント、組み写真（例「おいとこ記事」）、ときめき人など、1人ではなく2人（男1、女1）ぐらいにするなど、紙面を有効活用しては？

●市で行われたイベントなどが多く記載され大変素晴らしいが、その記事を見て自分も「行けばよかった」と思うことがよくある。最初最後のページに定期化するなど、翌月のイベント予定をもっと大きく取り上げてほしい。

●市誕生から10年を顧みるシリーズがあってもよいこと、シリーズ（数回）で顧みること、これからはないか。教育や福祉、基幹産業である農業や商工業分野など、少子高齢化が加速している現状からも、この先への参考になるのではないか。

●冠婚葬祭に関する情報、例えば習慣やしきたりの違い、ご祝儀や香典、出産祝い、法名代、入院した時の見舞金など、金額の違いなどを広報で

●「広報とめ」に高齢者のコーナーを。「広報とめ（平成25年）10月1日号」で「登米市の長者（百歳以上）」と「登米市の高齢者率」を見て、高齢化が確実に急速に進んでいると実感した。

●「広報とめ」に高齢者のコーナー、例えば「市民の広場」の「まちな若衆」

取り扱ってみてはどうか。

●夢や希望にチャレンジしていること、これからしていきたいことなど、老若男女問わず、紹介していくコーナーを設けてはどうか。

●「広報とめ」に高齢者のコーナーを。「広報とめ（平成25年）10月1日号」で「登米市の長者（百歳以上）」と「登米市の高齢者率」を見て、高齢化が確実に急速に進んでいると実感した。

のようなコーナーを設けたらどうだろう。タイトルは「生涯現役」など健康で頑張っている高齢者（長寿者）にふさわしいものを付ける。

内容は「食事や運動面で気を付けていること」や「趣味・特技・生きがい」など健康の秘訣につながるものが多いのではないかとと思う。それを見ただ多くの高齢者の方々が「なるほど。私も参考にしてみよう」と考えるようになれば、健康で自立して暮らす健康長寿者が増えていくのではないだろうか。

●基本的には現在のままでよいと思う。ただ、21日号の「ムシ菌のない子」は虫菌予防の啓発に役立っていると思うが、それに替わって乳幼児の健康についての情報を発信し

●読みやすく、分かりやすく

掲載されていると思う。特に「ムシ菌のない子」のかわい

紙面を増やせるのであれば、町ごとに、小学校・中学校の紹介、公民館、幼稚園、保育園など、テーマを決めて掲載すればより楽しめると思う。トピックスでは、町ごとのイベントや写真が掲載され、市民の頑張っている情報が得られて励みになる。

広報紙を読んで、考え、行動するような内容に

●ある程度仕方ないと思うが、どうしても「市からのお知らせ」的なものが多く、一方通行になりやすい。市民が広報紙を読んで、考え、行動するといった相互通行できるような内容にすれば、より充実した広報紙になるのでは。

市民の健康づくり（増進）関係のページを新設しては。例えば、①健診結果を分かりやすく具体的に知らせる②市内の病院医師や薬剤師、栄養士などの健康に結びつくコーナーを新設する③「私の健康づくり」コーナーの設置——など。

●表紙の写真で目を引き付けていると思う。中を開いても写真やイラストが随所に入り、内容が理解しやすい。編集する皆さんの努力で文章もより分かりやすくなっていると思う。

●昨年表紙の写真が素晴らしいと感じていた。中でも（平成25年）4月号の卒業式の生徒の目線、9月号のトウモロコシを食べる子どももののほっぺのつぶが良いポイント。11月号の新米を食べる子ども、

市政モニター

市政に市民の意見や要望を反映させるために設置。毎年、公募と各総合支所推薦による20人を市長が委嘱しています（平成25年度は男女各10人）。任期は1年。市政に対する建設的な意見や要望などを随時提出するほか、モニター会議（年2回程度）に出席し、市長と意見交換します。



▲市政モニター会議

12月号のリングゴを見つけた少女など、きらきら輝く子どもたちが良いアングルで撮影されている。

●そこで、表紙の隅か後書きに撮影者を明記してはどうか？ 今後も子どもたちや輝く市民の姿などを、たくさん広報紙に使ってほしい。

●他市町村と比較して、登米市の広報紙は内容も充実しており、情報ツールの一つとして重要視できる。個人的には

登米市の広報紙が一番良いと感じる。

●広報紙は年代によっては、ホームページ、FMなどよりも目で確かめる大切な役割を担っていると思う。市政のこゝろ、各町単位の活動など、いろいろな暮らしの情報があっても助かる。ただし、全ての市民が読んでいるのか？ 広報紙を全市民に活用してもらえたらと思う。さらに役立つ広報紙をお願いする。

広報とめ

全国広報コンクールに推薦

日本広報協会が主催する全国広報コンクールに、市広報紙「広報とめ」が県代表として推薦されることになりました。同コンクールは、平成25年中に発行された自治体広報紙などを対象に実施されているものです。

今回、全国広報コンクールに推薦されるのは「広報とめ（平成25年）9月1日号」で、広報紙（市部）の部と写真（組み写真）の部（30～31ページ）の2部門です。同部門での推薦は2年連続となります。

広報紙の部の審査評では、いじめ問題に取り組んだ特集が高く評価されたほか、「企画、文章、デザイン、レイアウト、全てのバランスが素晴らしい」などの評価を得ました。また、写真の部では、「夏祭りのさまざまな場面を人々の生き生きとした表情で表現している良い」などの評価を得ました。

全国広報コンクールの審査は、各都道府県から推薦された広報紙、広報写真、ウェブサイトなど部門ごとに行われます。昨年は「広報とめ（平成24年）12月1日号」が、広報紙（市部）の部で全体の3位に当たる入選2席を受賞しています。



広報とめ9月1日号は広報紙と広報写真（組み）で全国広報コンクールに推薦